

D-3

親子で悩んで、親子で学ぶ ～楽しく家庭学習を進めるために～

子供たちは、「宿題（家庭学習）をしなくてはいけない」という考えを持っています。しかし、すぐに取り掛かれなかったり、なかなか終わらなかったりするお子さんも少なくありません。特に、学年が上がってくると学習内容も複雑になり、「勉強しなさい」の一言では家庭学習は進みません。今回は、中学年以上のお子さんの学ぶ意欲を高める工夫を考えていきましょう。

エピソード

4年生のけんじさんは、困っています。社会の勉強があまり得意ではありません。「来週の火曜日に、全国の県名テストがあるんだけど、ぜんぜん覚えられないんだ。他にも、特産物とか、県のある場所とか、覚えなきゃいけないのに。だから、『社会』は嫌いなんだ…。お父さん、お母さん、どうやって勉強したらいいの？」そこで、お父さんとお母さんは考えました。



ワーク 1

- ① エピソードを読んで考えてみましょう。あなたが、お父さんやお母さんなら、子供にどんなアドバイスをしますか。親子で一緒にできることを考えてみましょう。



- ② グループで話し合ってみましょう。



ワーク 2

- ① お子さんの宿題や家庭学習が進まないときは、どのようなときですか。なぜその学習が進まないと思いますか。グループで話し合ってみましょう。

- ② 子供が家庭学習に意欲的に取り組むために、どのような工夫ができるでしょうか。

- ③ 意欲を高める家庭学習のキーワードをグループで話し合ってみましょう。

ふりかえり ～本日の講座はいかがでしたか？～



☆知っていたこと.....

☆新しく知ったこと.....

☆今後の生活に生かせそうなことは何ですか？ 自由に書いてみましょう。

【手引き】

D-3

**親子で悩んで、親子で学ぶ
～楽しく家庭学習を進めるために～**

子供たちは、「宿題（家庭学習）をしなくてはいけない」という考えを持っています。しかし、すぐに取り掛かれなかったり、なかなか終わらなかったりするお子さんも少なくありません。特に、学年が上がってくると学習内容も複雑になり、「勉強しなさい」の一言では家庭学習は進みません。今回は、中学年以上のお子さんの学ぶ意欲を高める工夫を考えていきましょう。

エピソード

5分間

4年生のけんじさんは、困っています。社会の勉強があまり得意ではありません。「来週の火曜日に、全国の県名テストがあるんだけど、ぜんぜん覚えられないんだ。他にも、特産物とか、県のある場所とか、覚えなきゃいけないのに。だから、『社会』は嫌いなんだ…。お父さん、お母さん、どうやって勉強したらいいの？」そこで、お父さんとお母さんは考えました。



【ポイント】けんじさんはやる気がある子供です。だから困っているのです。ちょっとした親のアドバイスで大きく変化することを押さえておきましょう。

ワーク 1

① エピソードを読んで考えてみましょう。あなたが、お父さんやお母さんなら、子供にどんなアドバイスをしますか。親子で一緒にできることを考えてみましょう。

7分間

【例】「いっしょに『日本一周双六』を作ろう。」

- ・北海道から沖縄県まで、県ごとに進んでいく双六。
- ・人生ゲームのように、止まった県の特産物をもらえるようにする双六。
- ・埼玉県からスタートして、沖縄県コースと北海道コースのある双六。

「いっしょに『県名カルタ』を作ろう。」

- ・読み札に県の特徴を描いて、絵札はその様子にする。
- ・読み札は県の名前、絵札は県の特徴にする。
- ・読み札は県の名前と特徴、絵札は、県の形にする。そのときには近隣の県の名前を入れる。



例えば、「双六」や「カルタ」を提案します。

② グループで話し合ってみましょう。

8分間



【ポイント】

県名を楽しく覚えるための方法を考えていきます。初めは、親が問題を出して、子供が答えるという方法が出てくると思いますが、「一緒に」「楽しく」できることを考えていくよう声を掛けましょう。現実的でなくても、アイデアを出し合うことが大切です。

ワーク 2

- ① お子さんの宿題や家庭学習が進まないときは、どのようなときですか。なぜその学習が進まないと思いますか。グループで話し合ってみましょう。

5分間

【例】・部屋の中でテレビやラジオが付いているとき ・苦手な学習のとき
・他に興味が移ってしまっているとき

【ポイント】ここでは、各自が記入した後、グループで話し合ってもらいましょう。明確な理由が見付からなくても、「うちだけではないんだ」と感じることで、保護者の安心感につながります。

- ② 子供が家庭学習に意欲的に取り組むために、どのような工夫ができるでしょうか。

5分間

【ポイント】

工夫はなかなか出てこないかもしれませんが、まずは、親が子供のしていることに「関心を持つ」ことから始めましょう。ときにはお子さんの横に座り、お子さんの家庭学習のやり方を見て、どんな言葉掛け、働き掛けができるか考えることも大切です。毎日だけでなく、1週間に1度でも取り組めると、子供はそれだけでやる気を出します。

そのやる気を継続させるために、次の段階で取組の内容面を考えてみましょう。

- ③ 意欲を高める家庭学習のキーワードをグループで話し合ってみましょう。

10分間

【例】「目に見える成果」

【ポイント】達成感につながります。子供は自分がやったことがきちんと分かることを喜ぶます。

【例】「遊びの要素」

【ポイント】基礎基本となるものを身に付けるためには、繰り返し行うことも大切ですが、場合によっては、遊び心があっても良いのではないのでしょうか。

【ポイント】

他に「ご褒美」という意見が出てくることもあります。ここでは、その出し方や渡し方、留意点等をしっかりと話し合ってもらいましょう。家庭によっていろいろな考え方があることを考慮しましょう。

ふりかえり ～本日の講座はいかがでしたか？～

5分間

☆知っていたこと.....

☆新しく知ったこと.....

☆今後の生活に生かせそうなことは何ですか？自由に書いてみましょう。

【まとめ】

大正から昭和にかけて活躍した幼児教育の研究・実践家である倉橋惣三の文を紹介するなど、子供を育てることの素晴らしさを話してください。